

價三八〇。星野書店發行〔中村〕

●重校海東金石苑、補遺、附錄

劉喜海輯錄
劉承幹重校

海東金石苑は諸人熟知の通り劉燕庭の編著に係る朝鮮

金石の大觀なるも、其の稿本は咸豐十年の亂に遭ひて燒

失散亂せしかば、同治年間に鮑子年が其の跋尾を刊行し

光緒七年に張松坪が前四卷を刊行せし雖も、全部八卷

の後四卷は容易に其の副本すら獲られざりければ、從來

の本書は實に闕卷の儘なりき。然るに數年前吳興の劉承

幹君偶々書店に於て劉氏の初稿本を獲たり、卷二より卷

八に至り、首卷を闕きしも其の喜や譽ふべからず、據つて

以て後四卷を補刻し以て張本の闕を補はむと欲せし折柄

又、北京にて其の首卷の離在せるを知り、之をも獲たり

上虞の羅振玉君の注意に基き原碑の文を以て張本の譌舛

を正さむとせし、主として葉氏平安館寫本並に入手し得た

る原碑拓本を以て校寫に努め校訂するもの六十三碑、附

録に入るもの七碑、葉氏寫本より得たるもの八碑を執り

劉氏の完本に過ぐる善本を刊行するを得たり、茲に至つ

て本書の内容實に一層の値を發す、中華民國十一年の劉

氏嘉業堂の刊行に係るも其の我が邦に舶載せらるゝもの
尙ほ甚だ稀なり、敢て茲に紹介して世の朝鮮史家金石文
家の利用を待つ。

●國學叢刊 第一卷第一期

北京の國立北京大學の機關雜誌、國學季刊に對して南

京東南大學、南京高等師範學校の支那學研究會員の機關

雜誌として表記の如き學術雜誌、昨年三月を以て創刊せ

らる。支那學を整理して文化を増進するを宗旨とし、挿

圖、通論、專著、詩文、雜俎の諸欄あり、毎年三、六、

九、十二月に刊行す、本號收むる所は挿圖に周散氏盤原器

拓本、周王陵車辨拓本、通論に論讀古書之怡趣（陳鐘凡

君）、秦漢經師之方士化（陳鐘凡君）、周季文史之分途及

文學之派別（顧實君）秦漢燒書校書兩大案平議（顧實君）、

專著に西漢周官師說故（劉師培君遺著）、詩經毛傳改字釋

例（陳鐘凡君）、禮經釋服（陳延傑君）、老子道德經解詁（顧

實君）、楚辭校補（易培基君）、明儒（陳鐘凡君）、中國修辭

學史略（胡光燁君）、屈子生卒年月及流放地攷（范希曾君）

論楚人之文學（王會稼君）、古重文攷（劉師培君遺著）等あ

り。該會は一昨年暑中休暇後に組織せられ、十月三日に發會式を舉げ、十月二十日以後は殆んど毎週講演會を開催しつゝあり。本誌所掲の諸論文は多く講演の草稿に出づ。陳鐘凡、顧實、柳詒徵の諸君顧問に任じ李萬育（經學部）、吳紹璜（小學部）、李蕙芳（史學部）、黎祥鐸（諸子學部）、吳江冷（詩文學部）の諸君各部の幹事に任じ、國學季刊と共に支那近來稀に見る、組織的學術雜誌なり、苟も支那學東洋史に志す者は必ず一讀すべきものならむ。國學研究會編纂、商務所書館代售、全年四期一元二角。

●國學叢刊 第一卷第二期

昨年八月の刊行に係る、其の目を次て開列す挿圖、周無異敦、敦煌千佛巖、通論六書解詁及釋例（顧貫君）、古代圖續文字之異同及其分合（陳鐘凡）、文字與語言之關係（嚴慧文君）、造字原本語言釋例及夷語考（顧貫君）、金石骨甲文學及文字形體の發明（趙華煦君）清儒治文字學之派別及其方法述略（陳且君）、專著文字上之古代社會觀（張世祿君）、從文字學上所見初民之習性（陳鐘凡）、中國文字學上之原始宗教攷（陳鐘凡君）、文字學上之中國人種起原

攷（陳鐘凡君）、華夏攷原（顧實君）、釋貝（李俶君）、小學研究叢錄、釋一三（田少林）、釋王（李俶君）、釋士（果念登君）、釋干（陳且君）、釋豐（曹松葉君）、等十五篇あり、

●國學叢刊第一卷第三期

昨年九月の刊に係る。挿圖、洛陽新發見魏正始三體石經拓片、通論南北戲曲概言（吳梅君）、周代南北文學之比較（陳鐘凡君）等七篇、專著、音律淺說（喬棟君）、釋藝（顧震禡君）、等五篇、其の他は文學的作物甚多し。

●華國 第一卷第一期

本誌は上海麥根路禍星里の華國月刊社の發行に係り、支那學術を甄明し、國光を發揚するを目的とす、其の主筆章炳麟君の發刊辭に曰く
 輓近世亂已極。而人心之假詭。學術之陵替。尤莫甚於今日。周末刻強吞噬。辨爲六七。生民塗炭。亦已甚矣……自昌其術。用則見於行事。不用則著之竹素。雖或精稀不同。淺深殊量。而要皆一時之好。其流風餘烈。足以潤澤百世。傳之無窮。故學術莫隆於脫周。與其國勢之敵。若相反。今則不然。居位者。率懵不知學。苟

聞其說。則且視爲迂濶而無當。學者退處于野。能痛然不拔。自葆其真者。蓋又絕鮮。大氏稗販泰西。忘其所自。云々

と、これが反動的に國學を鼓吹する同人の舉に出づるを知るべし、第一期は昨年九月の刊行に係り圖畫、通論、學術、文苑、小説、雜著、記事、通訊等の各項に分類し圖畫に新出三體石經拓本、楊子鶴講牛冊、陶窰如風緊寒鴉陣陣圍扇面、吳待秋聽社圖立幅、通論に國學通論(孫世揚君)、文學管窺(同君)、學術に新出三體石經攷(章炳麟君)、釋皇(汪榮寶君)、音略(黃侃君)、詞言通釋(鐘欽君)、法言疏證別錄(汪東君)、等見るべきものあり、華國月刊社發行、全年十二冊郵稅共五元五角

●華國 第一卷第二期

昨年十月の發行に係る。圖畫に清湘老人搜奇圖幅、楊子鶴講牛冊、陳師曾山水扇面、黃濱虹山水立幅、古印集拓、あり、通論に新文學商權、學術に新出三體石經攷(章炳麟君)、歌戈魚虞模古詩考(汪榮寶君)、詞言通釋(鐘欽君)、周禮政詮(但憲君)、釋素問九州九竅之文(汪東君)、

養蠶學(汪楊寶君)等あり、國學叢刊の純學術的論文の豊富なるには若かず雖も、尙ほ一讀の價値無しとせず。
〔以上那波〕

●京都帝國大學考古學研究報告 第八冊
學文學部

京都帝國大學考古學教室出版の同學研究報告の第八冊として最近印行せられたるもの、收むる處濱田教授、梅原鸚托合著の「近江國高島郡水尾村の古墳」の一編にして本年四月考古學教室の事業として徹底的調査を行へる同古墳に關する一切の研究を録せり。本文百頁は記述と考證の二編に分れて、前者は先づ古墳の位置と外形の現狀に筆を起し、内部の主柩をなす石室石棺より、發見の寶冠、沓、耳飾、魚佩、環頭太刀、鹿角製拵太刀、同刀子其他の興味ある副葬品に就いて豊富なる圖版と挿圖を加へて精査に記載をなせるもの、第二の考證編は右の記述に依り明にせられたる事實に基き考古學上の考察を試みたるものにして、古墳の外形の復原、石室と石棺、副葬品の埋没狀態、金製耳飾、金銅製裝身器、環頭太刀、鹿角製拵の太刀刀子等に分ちて論述する處あり、結論とし